長崎のまちの好きなところを見つけてみませんか

わたしたちが住む長崎のまちには多くのすてきな場所やできごとがあります。

歴史や文化に恵まれた長崎のまち。あなたは、そんな長崎のまちが好きですか？ 長崎のまちのことを思っていますか？

わたしたちの「宝」である歴史や文化を大切にしながら、まちをもっとよくしたいという「思い」の大切さを考えます。

【問い合わせ】広報広聴課 ☎829・1114

長崎のまちっていいね！

あなたの好きな長崎は？

あなたには、好きな長崎の場所や景色、まつりなどはありますか？ 出島、夜景、中島川、教会の鐘の音、クルーズ客船が彩る港の景色、ランタンフェスティバル、長崎くんち…。

全て、**長崎の歴史や文化の中で培われてきたもの**で、わたしたちの誇りでもあります。それは、長崎のまちが、国の内外から**多様な文化を受け入れながら発展してきた**から。

いろいろなものを受け入れてきた長崎市民の気質や風土を大事にしていきたいですね。

まちが「好き」なことと「思う」こと

まちが「好き」という気持ちと、まちを「思う」こと。実は、似ているようで少し違うことなんです。

まちを「思う」ことは、まちをよくするためにとても大切な気持ちなんです。

でも、どうしてこの気持ちが大切なのでしょうか？

「まち」と「ひと」とのつながりについて、長崎大学の山口准教授に話を聞きました。

あなたはまちをよくする主人公

山口 純哉 氏

長崎大学経済学部准教授。地域経済、まちづくり、コミュニティ・ビジネスなどの分野で各種研究、行政への提言などを行う。

Q：まちが「好き」という気持ちとは？

A：例えば、テレビ番組の「いいまちランキング」で、長崎が最下位だったとします。それを見たあなたは、どう思いますか？「残念」「くやしい！」はもちろん、「悪いところを改善してランキングを上げよう」と思ったあなたは、長崎のことが大好きな人だと思います。実は、まちを「思う」気持ちは、「まちと自分を一体に」考えるということ。「自分や親しい人のことのように親身になって」考えると言い換えてもいいですね。

だから、良いところだけではなく、悪いところにも目を向けないと改善しません。

まちを「思う」気持ちは、「好き」だけでなく、「案じる」→「行動する」→「好きになる」→「案じる」→「行動する」→…、の繰り返しだと思います。

Q：それは「郷土愛」のことですか？

A：まちを「思う」気持ちには行動が伴います。少し難しいですが、「市民には、まちを好きになる“権利”と、まちをよくする“義務”がある」という考え方があります。これを「シビック・プライド」と呼ぶときもあります。「ふるさとが好き」という気持ちとは少し違いますね。まちをよくしようと思えば、故郷でなくても大丈夫です。でも、積極的にかかわることが大事になります。

Q：大変な活動や、行政と一緒の活動が必要ですか？

A：いいえ。どんなことでもいいので、「まちのため」という気持ちを持って行動してみることです。「長崎のまちに貢献したい」と思ってする仕事でも、「みんなで健康に」とがんばるスポーツでもいいですよ。自分を「まちの主人公」にしてみてください。

長崎は、「まちをよくしよう」と思う人が多いまちだと感じています。市民の「まちづくり」の素地がこのまちにはあると思います。

Q：「まちづくり」と聞くと、参加しづらいイメージがあります…

A：「何から始めればいいの？」という不安や、「まちのため」と気負うことへの気恥ずかしさなどがありますよね。

長崎では平和の取り組みが盛んですが、「自分には被爆の体験がないから…」と行動をちゅうちょする若者もいると思います。被爆体験が語れなくても、会場のボランティアスタッフをしてみては？ 自分に何かの役割を与えてみてください。どんな役割でも、まちをよくすることにつながります。

まちを「思う」気持ちは、まちの将来をよくするエンジンなんです。

最後に

「将来の世代のためのまち」も考えてみましょう。自分の子ども、孫が「住み続けたい」と思うには、今からどんなことをしていけばいいでしょうか？

今年は、世界が注目する事柄が多く、長崎のまちを考えるいい機会です。市民みんなで、長崎のまちの良いところや悪いところを確かめる“市民総出の棚卸し”の年になればいいですね。長崎のまちを見つめ直して、将来のまちを良くするため、何か行動をしてみませんか。

長崎の奥深い歴史に触れる機会や、まちを「思い」行動する人たち、まちを知ることでまちを「思い始めた」子どもたちなどについて紹介します。

遠藤周作の思いを映す歴史が、長崎にはあった ～小説『沈黙』～

1月に公開されたマーティン・スコセッシ監督の映画「沈黙―サイレンス―」。自身もカトリック信者で、「日本人とキリスト教」をテーマにした小説を多く手掛けた作家・遠藤周作が、長崎を舞台に書いた小説『沈黙』が原作の映画です。刊行から50年たった今も、世界中で読み継がれ、映画化されるのはなぜでしょうか？

『沈黙』は、キリスト教が禁じられた時期の長崎の歴史を掘り起こし、光を当てた作品。遠藤周作文学館学芸員の川﨑さんは、「長崎の歴史が、遠藤のそれまで抱えていたテーマを刺激し、作品が生まれたのでは」と話します。

『沈黙』では、弾圧という苦しみを前にして揺れ動き、救いを求める人間の心の内面が描かれています。この「人間のあり方」を問う内容が、現代人の苦しみや悩みに重ね合わせることができるのも、作品が長く読み継がれる理由だと、川﨑さんは話します。

長崎の奥深い歴史と、昔も今も変わらない普遍的な人間の姿。

映画の公開を機に、文学館に足を運び、世界が注目する長崎の歴史や、遠藤周作の思いについて考えてみてはいかがでしょうか。

遠藤周作文学館

遠藤周作も眺めたであろう角力灘の風景も魅力のひとつ。現在は、映画公開記念特別展「遠藤周作×マーティン・スコセッシ「沈黙」展」（3月31日まで）を開催中。（☎0959-37-6011）

「まちを元気に！」という情熱を胸に ～長崎商工会議所青年部～

長崎商工会議所青年部が注目したのは、世界に誇る夜景。例えば、「耳でも楽しむ夜景を」と、世界的バイオリニスト・葉加瀬太郎氏にテーマ曲「長崎夜曲」の制作を依頼。音楽で夜景をＰＲします。

大切にしているのは、「市民と一緒に長崎の宝を大切にしたい」という思いです。

光あふれる夜景でおもてなしをするため、長崎国体など多くのかたが長崎を訪れる機会に、市民にカーテンを開けてもらうよう呼びかけました。「長崎夜曲」の楽譜は、市内の学校などに配布。子どもたちが曲を弾き、「自分たちの宝だと感じてもらいたい」という思いからでした。

昨年からライトアップしている稲佐山山頂の電波塔。稲佐山を見上げて、市民が夜景を楽しむというアイデアを長崎市と実現したものです。

「長崎のまちを好きになって、まちを元気にしようとする人がひとりでも多くなれば」という思いで活動を進めています。

稲佐山山頂電波塔ライトアップ

YouTube「長崎夜曲」

中村 繁 さん

長崎商工会議所青年部まちづくり委員長。長崎が元気になるアイデアの実現のために、仕事の合間を縫って取り組んでいます。

ふるさと長崎のことを知ろう！

「長崎の宝」発見・発信学習推進事業（教育委員会）

▼歴史や世界遺産など、長崎が持つ世界的な価値を「実感」して、「発信」できる人を育てるために今年度から取り組んでおり、事前学習・実地学習などを行います。ふるさとに誇りを持つ子どもたち自身が「長崎の宝」になることを願っています。

日本の歴史に貢献した長崎の歴史 ～野母崎中学校～

野母崎中学校では、以前から「のもざき学」として野母崎の歴史・文化を学ぶ取り組みがありました。

さらに、野母崎以外の歴史の奥深さを知り、将来どこにいても、ふるさとや住んでいる地域の良いところを発信できる人になってもらいたいと学習を始めました。

まず、生徒の興味を引いたのはユニークな学習。事前学習で「『長崎』が歴史の教科書にどれだけ登場するのか？」について学習したときです。思った以上に教科書に「長崎」が出てくると、生徒たちは、長崎が日本の歴史上でいかに重要な場所だったかということを実感しました。

現地学習では、世界遺産の資産である「旧グラバー住宅」などを訪れました。

同じく日本の近代化を支えた軍艦島についての学習を通して、生徒からは「毎日見ている軍艦島を誇りに思えるようになった」、「（来年の世界遺産登録を目指す）潜伏キリシタン関連遺産も勉強したくなった」という感想が出されました。

学習のまとめ（作文発表会）の様子

長崎の偉人に生き方を学ぶ ～虹が丘小学校～

以前から長崎の歴史の学習に取り組んでいた虹が丘小学校。

今年度は、独自にさらに深い学習を始めました。キーワードは「ひと」。高い志を持って、日本や世界で活躍した長崎の偉人について学習することで、歴史の知識のほかに、6年生が「将来どんな人間になりたいか」「どんな人生を送りたいか」と考えるきっかけにしました。

個人・グループ学習で、それぞれ一人ずつの偉人を調査。学んだことを、地域の方々を招いた学習発表会で、偉人に扮して劇で発表しました。さらに、調査したことをまとめた「偉人新聞」を長崎学研究所のコンクールに応募したところ、数多く入賞。高い評価を受けました。

「長崎には他の人のためにがんばる人がいた」「長崎は外国人も活躍できるまちだった」と学習を振り返る児童たち。今回学んだ「人としての生き方」が実を結ぶのは何年も先かもしれません。ただ、偉人たちの思いは、同じふるさとの児童の心に、しっかり引き継がれました。

レインボーフェスティバル（学習発表会）の様子

まちを好きな気持ち
まちを思う気持ちは
まちを磨く原動力

2017年は長崎のまちの良さを実感できる年

今年は、世界とつながっていた長崎の奥深い歴史を知るチャンスの年です。

キリスト教が禁止されていた時期の外海地区が舞台の**映画「沈黙－サイレンス－」**の公開や、来年の世界遺産登録に向けた**「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」**の動き。

出島では、昨年の復元建物6棟の完成に続いて、出島と対岸の江戸町をつなぐ**「表門橋」**が完成します。

まちの歴史を改めて考えてみませんか。

知ることは、まちを良くする第一歩

まちを「好き」な気持ち、「思う」気持ちがかたちになって、いつか長崎のまちを良くすることにつながります。

まち歩きをしてみる。博物館で**昔の長崎のまちに思いをはせる**。市の出前講座で市政のことを**学んでみる**。**ボランティア活動を始める**…。

あなたも、まちを知る一歩を踏み出してみませんか。そんなあなたは、いつかまちを「思い」、まちを良くする主人公になります。